

9月
議会定例会アルビオン社 事業拡大により町有地売却へ
白神山水の製造状況を報告

9月議会定例会が、9月12日から21日までの7日間にわたり開催され、条例の制定や平成30年度各会計補正予算案などの13議案と報告2件、承認1件、認定1件の計17件が提案・可決され、平成29年度歳入歳出決算についても認定されました。



粒と平年より5%ほど少なくなっている状況であります。

なお、東北農政局発表、8月15日現在における秋田県の作柄概況によりますと、県北地区は「平年並み」と見込みまれております。

今年の米の概算払金額は、昨日開催の全県JA組合長会議で決定されましたが、JAあきた白神独自の加算金も含めた金額は、今後検討のうえ、決定されるものとあります。

次に、今年で9年目を迎えたリンドウは、栽培面積418.4a（内採花面積377.5a）で、8月16日までの販売においては、出荷本数は329,530本、販売額は15,065千円で、昨年同期と比較し、本数で42,390本、金額で3,033千円程下回っております。

今年は、高温により開花が前倒しとなったところに、数日間低温に見舞われたりと、老弱株を中心に病気が入り、収量・

品質とも低下したようであります。単価的には1本45.8円と、昨年より2.9円下落しております。今後は、JA営農センターとも連携しながら、株の更新を促進してまいります。

次に、白神ラムの飼育状況についてであります。現在、子羊は135頭で、うち20頭を繁殖育成に向け、ホゲット向け15頭を肥育し、今年度の出荷は、ラム肉用100頭、ホゲット用16頭を予定しております。繁殖用緬羊は、132頭体制となります。

次に、ニホンザルによる農作物の被害防止についてであります。4月中旬から出沒が確認され、随時追い払いに当たっており、鳥獣被害対策実施隊による、週末の巡回や檻・かかしを設置により、これまで8頭を捕獲しており、昨年同期より3頭増となっております。

ツキノワグマにつきましては、昨年よりは目撃、出沒は減っているものの、4月下旬から出沒が確認され、農作物の被害が発生した箇所や、人的被害が懸念される場所にクマが出沒した際、檻の設置や巡回を行い、現在まで5頭を捕獲しております。また今年度から、新規狩猟免許取得者に対する補助制度を設けてお

りますが、今のところ実績はございません。またこの度、大音量を発生させる動物駆逐用煙火を農林課で購入し、住宅地の近くで猟銃が使用できない場合、鳥獣の追い払いのため試験的に活用を予定しております。これは、大量の火薬を使用して大音量を発生させますが、危険を伴うことから、所定の講習を受けた職員に従事させることにしております。

秋には、きのこ採りのシーズンとなり、山に入る機会が増え、クマと遭遇する確率も高くなることから、看板設置や防災行政無線を活用した広報により、注意喚起をしてまいります。

◆白神山水生産施設の「水処理ろ過装置」の修理と商品の製造状況

7月25日の議会全員協議会でご説明致しました水処理のろ過工程に係るセラミックフィルター交換工事は、7月26日に工場社員が作業補助を行い、終了しております。翌27日には交換作業の再点検のため、改めてセラミック膜の気密測定に基づく発泡検査を実施し、全工程の完了を確認しております。

この間、お客様にはすべて在庫品で供給対応しましたが、注文のすべてに応えることができず、受注の4割程度の納品にとどまりました。

また、水の濁りにつきましても、成分検査を継続した結果ごく一時的な現象であり、有害物質の混入もないことが判明しております。

加えて、セラミックフィルターも従来使用していたものと比較して高性能なも

行政報告

◆稲作の作柄状況ほか農業関係

稲作関係について、8月21日現在における能代山本地域の水稲の生育状況は、㎡当り穂数が392本と、平年と比較すると12%ほど少なくなっております。1穂当たりの着粒数は80.4粒で平年比107%、㎡当りの着粒数は3万1千5百